

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
部 長	今北 正美
技術科長代理（検査科兼務）	原 克則
主査（臨床検査技師・細胞検査士）	中井 信子（育休中）
（臨床検査技師・細胞検査士）	伊藤 歌奈己
（臨床検査技師）	岩橋 孝祐
（臨床検査技師）	宮内 雅哉
（臨床検査技師・細胞検査士）	三ノ浦 保彦
（臨床検査技師・細胞検査士）	米川 みな子（育休代替）
（事務職員）	藤井 光子

—来年度への抱負—

病理医が1名増員されるので、より質の高い診断を目指して研鑽する。

—概要—

2008年に「病理診断科」が広告可能な標榜科名として認められ、医療法施行令第3条の2に「病理診断科」の名称が付け加えられた。当院では、2014年に病理診断科を標榜したが、実態としては、検査科の一部門として運営されていた。2019年4月より、病理診断科は検査科とは分離され、独立した診療科となり、医師1名、臨床検査技師（6名、うち細胞検査士3名）、事務職1名の計8名で業務を行っている。

病理診断科の業務は、細胞診断、生検組織診断、手術で摘出された臓器・組織の診断、手術中の迅速診断および病理解剖からなっており、診断を確定するためないしは最終診断として「病理診断」は大きな役割を果たしている。

—実績—

	2017年	2018年	2019年
組織診	4,577	4,753	5,156
術中迅速組織診	218	207	205
細胞診	5,432	5,082	4,862
術中迅速細胞診	75	43	81
病理解剖	7	14	10

上記に直近3年の実績を掲載した。組織診は年5%程度ずつ右肩上がりに件数が増加しており、術中迅速組織診も200件/年以上実施されている。細胞診は、当院産婦人科の特殊性から件数は減少傾向にある。病理解剖は減少しているが、10件/年以上を維持すべく努力している。

—今年度の成果と反省点—

組織診件数は増加し、術中迅速診断も200件/年をこえていることは、当院で高度な医療が実践されていることの反映と考えられる。病理解剖は年々遺族の承諾を得るのが難しくなっているが、関係各位の尽力により10件を施行できた。